

アイスの棒を繋げて音を  
鳴らしてみよう  
(やってみよう)



1・2・3・4!  
本数が違う!  
(驚き、発見、気づき)



本数って決まってるんだ!  
(驚き、気づき)



前日にティッシュボックスに輪ゴムを付け、バイオリンをつくっていたAくん。「バイオリンは棒で鳴らすねん!」と、アイスの棒を長く繋げて音を鳴らしていましたが、思うような音が鳴らず「バイオリンを本で調べてみる」と、絵本を探しに行きました。しかし載っておらず…「スマホで調べる? パソコンで調べる?」「アップデートが必要」とBくんやCちゃんと話していました。翌日、輪ゴム以外にもテグスやゴムテグスなどを準備しておくAくんとBくんは「ゴムよりこれがいい」と、ゴムテグスを付けました。Aくんは「今日はこの棒(弓)で音が鳴るように考えないと…」と、BくんやCちゃんと話していました。前日、パソコンで調べたいと話していたため、パソコンでバイオリンの画像を探すと、Aくん「この数が違う」Bくん「4本!」と、弦の本数を数え、ゴムテグスを増やしていました。画像で弓を確認したAくんとBくんは「棒って1本じゃない、2本いるやん」と気づきました。

やっぱりアイスの棒では  
音が鳴らないよ  
(つまずき)



弦を少し引っ張って  
つけてみよう  
(試す)



馬の尻尾?  
(驚き)



翌週、Bくんがアイスの棒で鳴らそうとするとやはり鳴らず、音を鳴らそうと力を入れると曲がってしまい、AくんとCちゃんは「もっと頑丈な棒がいるよね」と、材料庫に使えるようなものを探しにきました。Cちゃん「これ使えそう」と太めの竹ひごを選ぶと、竹ひご2本をテープで巻き太くすることにしました。

数日後、交通安全教室でバイオリンやヴィオラなどの演奏を聞き、間近でバイオリンや弓を見ることができ「弓は馬の尻尾からできているよ」と教えていただき、子ども達は「どうやって馬の尻尾みたいにしよう…」と、悩み悩んでいます。

### 子どもの育ちや学び

- ・本物のバイオリンのようにしようと、パソコンの画像を見て比べたり、様々なことに気付いたりしたことを友達と共有する。
- ・ゴムでつくっていたが、テグスやゴムテグスの感触を確かめ、より良いと思うものを選ぶ。
- ・アイスの棒では思うように音が鳴らず、違う材料の方が良いと考える。
- ・実際に本物のバイオリンを見たり、何でつくられているのか聞いたりし、知ろうとする。

### 保育者の思い

- ・自分達が気になったことや知りたいと思ったことを調べようとする子どもの行動を大切にしたいと思いました。楽器の載っている本がなかったため、子ども達が呟いていたパソコンを使うことにしました。
- ・自分達のイメージにあるバイオリンと画像を見比べ、より本物に近づけたいと思う子どもの気持ちを大切に守ったり、気づきに共感したりするようにしました。
- ・画像で見たバイオリンより本物を間近で見ることができた機会があったことで、さらに本物のバイオリンに近づけるよう子どもに寄り添っていきたくと思いました。

### 家庭だったら・

楽器だけでなく、子ども達が興味をもったもので本物に触れる・見る機会などありますか? にじ組では、楽器だけでなく、化石などにも興味をもっています。子どもの興味に寄り添うことや疑問に思ったことを突き詰めようとする姿を大切にしていきたいですね。